

私たちの曹洞宗の教えは、お釈迦さまの弟子である摩訶迦葉さま、摩訶迦葉さまから阿難陀さま、阿難陀さまから商那和修さま・・・というように、歴代にわたるお坊さん方が師匠から弟子へと、まるでリレーをしているかのように、教えを受け継がれてきたものです。

今日のような曹洞宗の姿が確立されたのは、歴代のお坊さん全員の力があってこそなのです。私たちは、お釈迦さまは言うまでもありませんが、特に、中国から日本へとお釈迦さまの教えを伝えた道元さまと、日本の国内で禅を弘め、今日の曹洞宗の礎を築かれた瑩山さまを、教えの中心として大切にしています。

瑩山さまは幼い頃、観音さまへの信仰が篤いお婆さま、お母様のもとで育ち、十一歳で永平寺のお坊さんとしての見習いを始められ、十七歳で正式に出家をされました。道元さまの弟子である懐奘さまや寂円さま、懐奘さまの弟子である義介さまの指導のもとで、坐禅や読経など道場でのさまざまな修行を熱心に、一生懸命に勤められました。そのお姿は、一緒に修行をしている僧侶からも一目置かれていたそうです。

そして、瑩山さまが修行を深められた秋のことです。

義介さまが「平常心是道（へいじょうしんこれどう）」という禅の言葉についてお尋ねになり、瑩山さまは「仏さまの心とは、周囲とは違う特別なものではなく、私たちが日常生活を送っているその心と何も変わらない。真っ暗闇の中を、真っ黒い玉が転がっていくように、見分けがつかない。」と答えられました。

瑩山さまの僧侶としての力量が熟してきたことを感じた義介さまは、「良い答えだが、理屈っぽすぎる。もっとわかりやすく言ってごらん。」と再び尋ねると、「お茶ができれば、お茶をきちんといただきます。ご飯のときは、ご飯をきちんといただきます。そのように、毎日の生活を規則正しく、一つ一つのことを丁寧に言うことです。」と瑩山さまはお答えになりました。

このお答えにより、瑩山さまは義介さまからお悟りを認められ、道元さまの教えを正統に受け継ぐ四代目の弟子とされたのでした。

今日、ラジオをお聴きになっているみなさまは、どのような一日を過ごされる

でしょうか。例えば、一杯のお茶を頂くその姿に、一膳のご飯を頂くその姿に、心安らかな気持ちを探してみてもいいでしょうか。

— 終 —